

隨想

獅子と虎

速水 良祐

獅子も虎も猛獸の代表選手、獅子が「百獸の王」と呼ばれるアフリカのチャンピオンなら、虎もまた「密林の王者」アジア随一の猛獸である。その強さにおいては、両大陸で、かなうものはない。

昔はアジアにもライオンはいた。小アジアやペルシャにいたことは学者の研究ではっきりしている。いまインドの西北。カチニアル半島にあるが一森林にインド政府保護を受けながら、わずか百頭余りが生き残っているだけで、あとは絶滅してしまったことは何を意味するか。強敵トラに滅されてしまつたとみることができよう。そして、アフリカにはトラがないので、ライオンが繁殖したのだといえるのではないか。ところで、強い方が必ずしも人気があるとはいえない。

日本語でも獅子が悪い意味に使われることはまずないが、トラになると、逆にいい意味に使われるとは、ほとんどない。婦人議員



が超党派で提案した「酔っぱらい追放法案」も、通称「トラ法案」と呼ばれている。あたりかまわず大声でわめきちらし、女性にからみ、はては乱暴する酔っぱらいのことを「トラ」とは、いつごろから呼びならわしたことであろうか。英語の辞書をひくと、ライオンには「力の強い勇猛な人」とか「名物男、流行兒、人氣者、名士」という訳がついている。つまり、獅子が転じて、そういういい意味を持つようになったのだ。一方、タガーリガーの方は「残忍な男、あはれど者」という意味を持つとある。ドリック語やフランス語でも同様である。皮をはいでしまうと、専門家でも、ライオンとトラの見分けがつかないというのに、これは大変な差別待遇である。

動物園で見ても、ライオンのオオにはふさふさとしたタテガミがあり、何となく威厳があつて「百獸の王」と呼ぶにふさわしい姿である。トラも黄と黒のシマ模様だがなかなか美しいが、ライオンほどない。

も貫録がないように思われる。どちらも猛獸だから、羚羊や鹿などの弱い動物を犠牲にすることによつて生命を維持しているのであるが、犠牲に仕方がひどく違う。两者の人氣の差は、こういうところにあるのかも知れない。ライオンは必要なだけしか獲物を殺さない。だから、羚羊やシマウマの群れがライオンに追いかけられても、仲間の一頭が捕まつたのを見ると、もうそれ以上は逃げない。あとは安全なことを知つてゐるからだ。

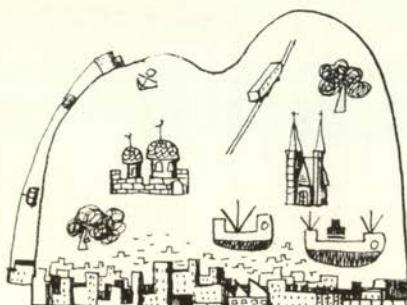
またライオンの家族が近くにいても、空腹でないことが判ると、平気で近くで草を食つてゐるという。ライオンの一家族が必要とする食糧の量は大体一週間に羚羊やシマウマ一頭の割りであるから、あと六日間は、これらの弱い動物たちも安心して草を食つていられるわけである。ところが、トラとなると、事情が全く違う。見さかになしに殺してしまうのだ。一度に牛を五、六

表紙のことば

頭も殺すことがあるという。もちろん、そんなに食糧を必要とするわけではない。獲物をみると衝動的に殺してしまわざはいられないらしいのだ。タイガーに「残忍な男」という意味が生れるのも、ゆえなしとしない。

また、見さかいないに暴れ回る酔っぱらいを「トラ」と名づけるのも当然である。そういえばヒトラーもトラの一種だったといえば駄洒落すぎるだろうか、（毎日新聞神戸支局次長）

山紫水明



星空ひかる

私は、神戸の長田で生まれ、以来ずっと神戸に住んでいます。神戸を離れたのは、戦時に田舎に疎開した時と、地方公演の時だけ。だから本誌の題名「神戸っ子」と同じように、いわば私も生粋の「神戸っ子」です。山紫水明の神戸の街は、ほんとうに美しい街―美しい環境に包ま

れていると、その美しさを余り意識しないけれども、それでも折りにふれて電車の窓から眺めた海の美しさや、山々の樹々の色の変化に、季節の移り変わりを知らさせて、『我が故郷は佳きかな』と思ふことがしばしばあります。

四、五年前にハワイへ行った時その美しさに「同じ住むなら、こんな所で…」とチヨッピリ思つたりもしましたが、それでも神戸に帰つくると、やはり私には神戸が一番いいとつくづく思いました。たた、いつも残念に思うのは、東京、大阪はもちろん、名古屋にも地下鉄があるのに、神戸にはまだそれがないことです。

素人考えだけれど、神戸のような東西に長い街は、横に一本だけ地下鉄を走らせば、片付くのではないか?

先日、ある紡績会社のファッショング・ショーを兼ねた公演があり、着地のメーカーが、如何に色彩といふものに关心を持たれ、新しいモードをとり入れることに懸命になつていらっしゃるかを知りました。神戸には外人の方もたくさん住んでいらっしゃるし、外国の観光船も一番に人港します。

港やあちこちの街角で、ふとみかける外國婦人の持ち物や、服装のアカぬけしたセンスに魅せられることがよくあります。

「婦人服は神戸の仕立て」―ということをよく耳にしますが、私たち『神戸っ子』は、もつともっと色彩ということに関心をもつて、行は神戸から。流行は神戸から。つまり美しい街―美しい環境に包ま

(宝塚花組)

いまま世界画壇で最高といわれて、ピカソ以上に話題になり注視を集めているのは、ベルナール・ビュッフェである。そして、その画は画壇最高の価格で、ピカソをしのぐ程よく売れるといわれている。

この画伯、実は三十三歳の小伙子だが、いまは、パリを離れてエックス・アン・プロヴァンスに城を買って住んでいるといわれている。この驚くべき人気は、神秘的な伝説さえ生むというくらい。彼独自の鋭いタッチで描かれた、すばらしいデッサンは鬼才を思わせ、その迫力はビュッフェ独特の世界で現代人を魅了する力をもっている。

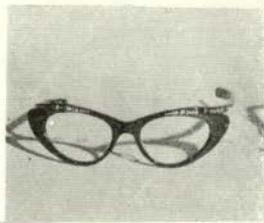
日本でもビュッフェの人気はすばらしく、最近でも国際美術展、ビュッフェ展などがひらかれている。『神戸っ子』の表紙を飾つてゐる、鉛筆デッサンによる『鳥』は一九五八年に創作された作品:

しかも、こんなビュッフェの画が、神戸のいやれたバターにかけられていたとしたら: 既に神戸っ子にも紹介された、飛鳥にかけられています。さすがに神戸のバーラーにセンスのいいところです。『神戸っ子』のフランス特集号にタイミングを合せて、表紙カットとして紹介させていたたきました。

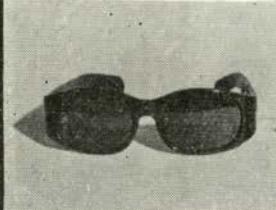
サングラスで 楽しく・美しく

夏のアクセサリーとして
楽しいサングラスを

- サングラス
豊富品揃



¥ 400～
¥ 1,700



平井メガネ

生田区加納町4丁目1ノ1
国鉄三宮北側 (2) 7937



お菓子のことなら

壽本舗

三宮店・阪急神戸西口 (3) 0381
元町店・元町通2丁目 (3) 1136



ここに神戸がある

司馬遼太郎
え・中西 勝

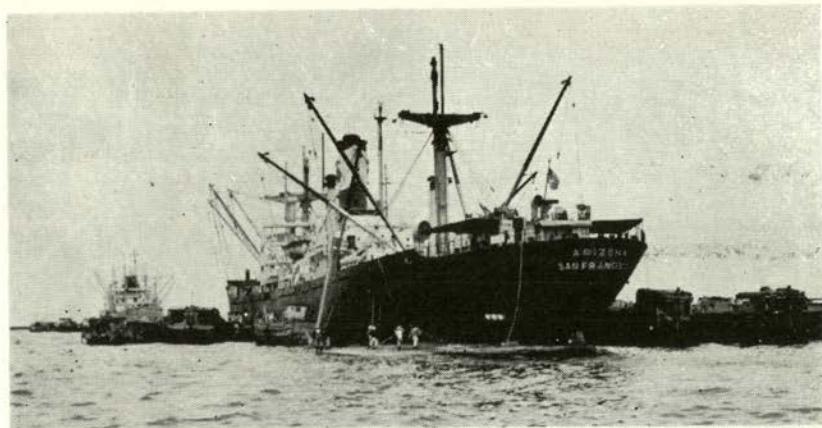
船旗の群れる海

五十嵐さんこんどはどこへ行くのときくと、ミナト、といった。
「結構やな」

毎月一度、神戸へゆくのが、私にとって、ちょっとした楽しみになつていて。ひとつは消化不良を解決する体操のつもりだ。もうひとつは、このようなお膳立てがなければ、私が子供のころから抱いていた神戸への食わざきらいは、ついに不治なものになつたに相違ない。

もつとも、大阪人にありがちな神戸ぎらいというのも、べつに根拠のあるものではない。下町のサンバツ屋のおかみさんが、山の手の奥さんに反発をおぼえるようなもので、尊敬の一表現といつてい。正直なところ、われわれどろくさい大阪人の感覚からすれば、神戸にはすこしまばゆすぎるようなところがあるようだ。

その神戸のまばゆさの光源が、どこにあるか。
いわゞと知れている。慶応三年以来ミナトに出入りしつづけてきた内外の商船群であり、彼女らが、つねに新らしい感覚を神戸に運んできた。このミナト見物は、わが神戸見学基礎教程に欠かすことができまい。



※

「神戸っ子」の五十嵐さん、小泉さんのほかに、神戸きつての船舶通といわれる神戸新聞外務部長の大淵ツトム氏がわざわざ案内の労をとつてくださった。私のはうでは船好きの恩妻がついてきた。むかえてくれたなかに、もう一人、重要な人物がいる。家内の友

人で、産経新聞文化部の記者栗津信子さんである。

この人ほど、神戸を愛している神戸人をみたことがない。つねに十分の会話のうち一度は、コウベということばが出る。

栗津さんのふしきは、五十嵐さんなどとはちがつて、はえぬきの神戸人ではけつしてないのだ。彼女の神戸との縁は、新聞社の神戸支局に数年在勤しただけの縁にすぎない。

よそのお嬢さんの閲歴を申しあげてはすまないが、このひとは長崎にうまれ、京城でそだち、東京に遊学し、大阪につとめ、神戸に住んでいる。当然、彼女は比較都市学の権威にならざるをえない。その彼女が、大阪や東京を田舎と見、日本では神戸だけを都会だとみている。彼女が神戸で私どもをむかえてくれたのは、たんな観迎の目的ではなく、多少、監視の意味もふくんでいると私は邪推した。時と場合によつては、大阪の田舎者の偏見を、彼女は横あいから正そうとするつもりだったのであろう。

※

私どもは、神戸通船会社の港内遊覧船に乗った。

先年、恩妻と横浜へ行つたついでに港内をみせてもらつたが、なるほど、数字が示すだけでなく、神戸港は横浜のそれとくらべて、是絶した規模と美しさをもつてゐることが、ひと目みてわかつた。

「あしたになつたら、アメリカの航空母艦が入つてきますねん」と船のなかで五十嵐さんがいつた。外国船の一つ一つについて、大淵さんが専門的な説明をしてくれた。栗津さんはだまつていた。航空母艦はいたくとも、外国船が、いっぱいいた。船は、その国の文化と伝統の象徴であるということばが正しければ、そこに『外国』がいっぱいいた。

かれらは、貨客を日本に運んでくるだけでなく、たとえば、ネクタイのガラや、婦人靴のモード、ちょっとした身ごなしや、咳ばらいの仕方や、食卓につくときの順序や、酒をのむときのセロリの嗜み方まで、ふんだんに神戸の街にこぼしてゆく。

代々の神戸っ子は、かれらがまきちらしてゆく空気のなかでうまれ、そだち、この街をつくる大事なメンバーとして活躍してきた。

日本の大都会は、どの町をとっても、たいていは明治以前からの歴史をもち、城もしくは寺という封建勢力を中心に発展してきたものだが、神戸にかぎっては、慶應三年の開港当時は、山と海とわずかな漁村があるだけの海滨にすぎなかつた。

京都は平安時代にすでに十五万の人口をもち、大阪は元禄時代に七十万の都会であり、東京は文化文政期には百万という世界有数の大都会であつた。これらの都會どもは、明治の開国期になつてその封建的体質のまま、大あわてで頭だけは洋髪にしたが、足には下駄をはいていた。

いわば宿場の娼妓がにわかに良家のお嬢さんのかつこうをして町を歩きだしたという戯画以外のなにももなかつたが、神戸だけはちがつていた。

明治の開国とともに、つまり明治の開国精神をもつて、あらたに砂地のうえに出米あがつた町なのである。

したがつて、この町には、日本のどの都會にもある。あの奇好な排他性がない。その極端な例として、京都や金沢や熊本を思ひだすがよい。東京でさえ、他郷出身の者が住むときに感じざされるあの排他性は、日本の都會が、いまだに封建分藩制の名残りをとどめている証拠であり、かれらが都會ではなく、大きな村にすぎないといわれるゆえんである。

神戸の歴史は、そういう日本の性格のふつきれた史的地点から出発し、その体質をつくる土壤を、日本の伝統にもとめず、つねにミナトに入つてくる外国船にもとめた。

この都會が、六大都市のなかで、ついに異質なものになつたのは当然なことである。

※

港の外国船をランチのなかから見あげながら、私は、この神戸がなぜ他郷人である栗津さんを魅了したかについて考えていた。
(なるほど、長崎うまれやな)

長崎という町が、江戸時代にあつては神戸的性格をもつ唯一の町だったのだ。

それに、京城そだちである。

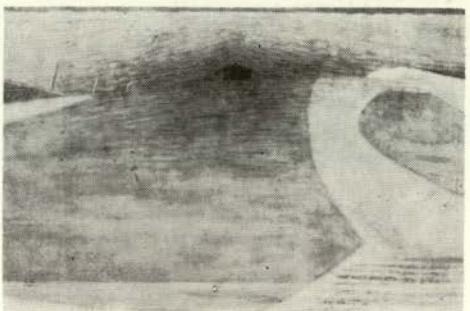
植民地の総督府のある町というのは、例外なく、日本の泥臭さからふき切っている。大連、新京、台北を考えれば、それらは、いずれも神戸に似ていた。

(なるほど、な)

私は、そっと、粟津さんをみた。彼女は、だまつて微笑しながらまるで自分の家の床の間の置き物でも見る様に外国船を見ていた。彼女は神戸弁こそしゃべれない。しかしその横顔にはありありと神戸がいた。



メリケン波止場に立つ司馬遼太郎氏
後方はポートビル右が水上署



「道の構図」

神戸で水彩画家というと、すぐ名の出るのが別車博資氏だ。画歴もかなり長いし、神戸に住んで神戸の風景をもたくさん描いているのだから当然のことだが、氏はまた大ぜいの弟子を持つていて、有名である。これは、ご本人にはその意志が無かつたのかも知れないが、長年にわたって兵庫工業高校の教職にあつた関係上、直接、間接に生徒を指導したためであり、また同校は図案科などであつて、そんな方面を突つこんでやる素質を持った生徒が比較的多くいたせいであろう。

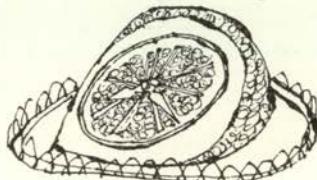
上尾忠生君はその別車氏の教え子の一人である。もっぱら風景を追求しているが、現在は師とはかなり違った傾向を進んでいる。かなり日本的な装飾性が強く、し

かもそれを何となく“絵”を持つた快いムードで包んでいる。いつとき、それが心象風景的に處理されたものだったが、最近ではいささか明るくカラリと仕上がりすぎて作品が平板になつきらいがある一つの曲がり角に来ているのかも知れない。

しかし、初期のころの酒倉などの建物をズングリと重々しくとらえていたころから、絶えず個性を見せていた同君のことだ。水彩画の世界における新しい方向の開拓も夢ではあるまい。

一水会 日本水彩連盟所属。昨夏、神戸美術館で催された“われらの新人展”では一水会から推され写真の作品ほか一点を出品、他会の俊銳と競つて受賞している（伊藤誠）

時計花



つゆどき

松井高男

そのむかし、男性ながらすばらしい金髪の持ち主だったギリシャ人の友人と、絵の具箱をぶら下げ

て奈良へ出かけたことがある。東大寺の裏の、池のほとりにカンバスをすえたところ、あいにくの梅雨空、次第にこぬか雨がたちこめてきた。池のそばには、寺院の白い土堀が坂とともにうねりながら長くのび、煙りはじめた池の面にそれがにじむように映っていた。

と、その土堀のなかほどにあるぐくり戸が開いて、和服姿の女性が立ち現われた。ぐくり抜けたままの姿で小腰をかがめながら、ぱつと開いた蛇の目の、周囲をとりかこむ新緑をあざむくばかりのその透けるような緑と、エンジの雨ゴートが、白堀の前でハツとするほどの効果をあげた。鮮烈な印象をきざむ瞬間の情景だったが、残

念ながら隣りにいたギリシャの友人は、私の注意にもかかわらず、一べつをくれただけで、鼻唄を歌いながらそそくさと絵の具を片づけはじめた。

毎年、梅雨どきになると、きっとそのときのことを鮮やかに思い出こすが、神戸の町では、これほど印象的な色彩の配合に出てくることが多い。もちろん場所柄も違うが、一つの色が際立つには雑多な色がありすぎる。だが雑多ながらに見なれた目には、それがきわめて自然にうつる。いいことなつか悪いことなのか、ともかく神戸の町は梅雨空の下でも明るくはなやかである。奈良で感じた金髪の異質感も、神戸へ帰りつくと同時になくなった。（神戸新聞学芸部長）



洋服・紳

渡邊

銀座店 銀座6丁目交誼社ビル
TEL. 東京(571)2373・2637



神戸店 神戸三宮センター街
TEL (3)1650・6152・0019



オシャレをたのしむ帽子の店

マキシン

トア・ロード TEL(3)6711-3

神戸の学園

No. 2



松蔭女子学院をたずねて

提供

兵庫トヨタ自動車株式會社



東京オリンピック

をめざして

昭和の始め、現在の地青谷に新校舎設立の際、故浅野校長の女子教育における進んだお考えのもとに、飛込台付の二十五メートルブルールが建設されましたことは、当時の人々を大へん驚かせました。三十余年の歳月の流れの中に、美しかったタイル張りのブルールの底も、十数ヶ所かコンクリートで修繕され、思い出を秘めて水面に映っています。戦前にも数人の先輩が神宮ブルールに出場、その技を競つて立派な成績を納めたと伝えられています。

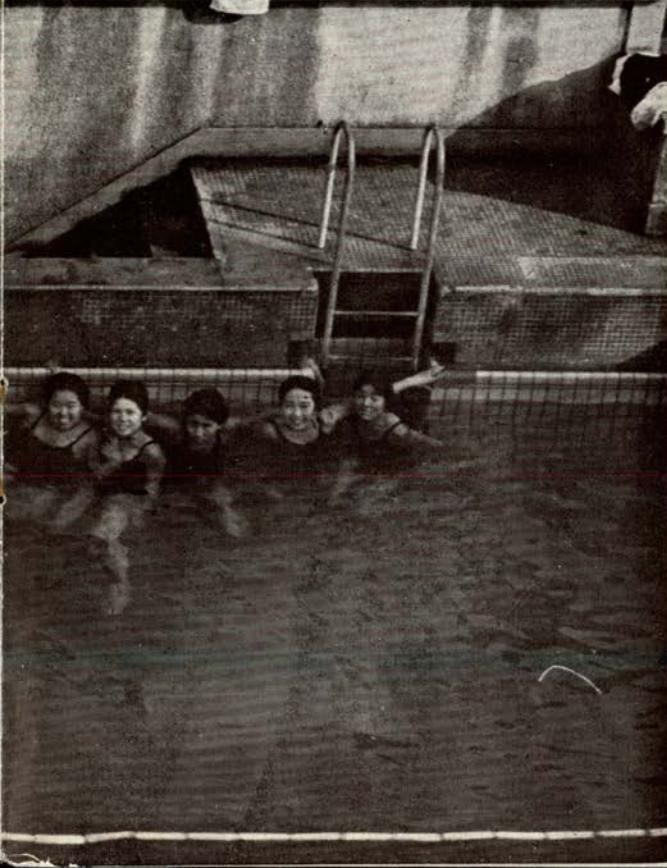
が、私の頭の中に浮んできますのは、なんといっても戦後の数々の河童たちです。

焼跡を見られる昭和二十三年早くも美しい水を張ったブルールで練習に励んだ河童は、翌年、水泳界に名を轟かせていた武庫川女学院チームを破り、兵庫県高校選手権に優勝。この時から県下、近畿、全国、団体にと目さましい活躍を続けています。

外に名を轟かせる第一陣としての記録を残しています。

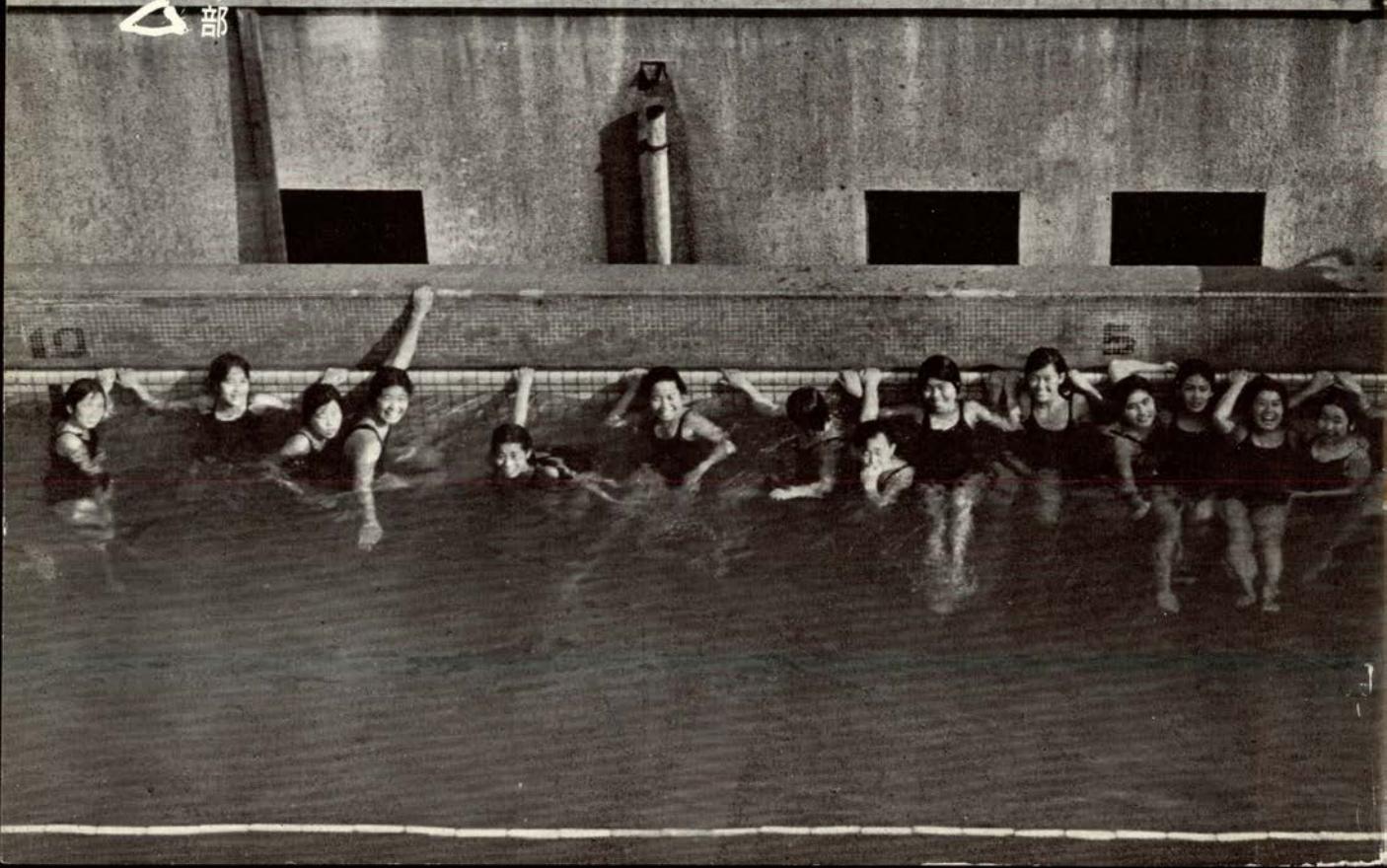
統いては、今日でも現役として活躍中の江原（背泳）芦塚（バタフライ）、津谷、友江（飛込）の河童たち。津谷鹿乃子さんはメルボルン、ローマ・オリンピックへ出場、日本水泳界を背負って立つべラン選手です。

このような立派な卒業生を生み出した伝統あるブルールでは、この数多い河童の中でも、昭和二十四、五年ごろ可児（背泳）福井、芳井（平泳）飛込の坂口、木村、後藤のトリオが、全日本選手権に出場して一、二、三位のメダルを得、なかでも坂口修子さんはマニラのアジア大会に出場、海



ベストナイン

松蔭女子水泳部



広田定一殿

マロングラッセの本場フランス最大のチョコレート会社
シユシャル社長並に技師長よりの
おほめの手紙

年頭に際しシユシャル社長をお忘れなく御町寧な御祝詞に対し衷心より御礼申上ます
尚見事な容器入のマロングラッセ御恵送に与りありがとうございました御座居ました
マロングラッセは誠に申分なき出来栄でヴァニラの香りもゆかしく全体的にみてフラン
スの市販の物より遙かに優秀な製品である事を認めましたこれはありのままの言
葉で決してお世辞ではありません重ねて心からお賞め申上ます
新らしき年の御幸福御繁榮並に御健康を祈り且つ親善の友情を誓つてペンをおきます

昭和三十一年（一九五六年）

パリの一月九日

仏国チョコレート株式会社

技師長
ヴィオジエ

V.P.P. Suchard
"CHOCOLAT SUCHARD"
SOCIETE ANONYME FRANCAISE
CAPITAL : FRANCS 400.000.000
10 RUE MERCORUR
PARIS XIE
R.C. SEINE 54 B 500
DIRECTION

Paris le 9 Janvier 1955

Monsieur Hirota
78, Motomachi 3-Chome
Kobe
Japan

Cher Monsieur,

Vos lignes du 15 décembre nous sont bien parvenues et il nous est très agréable de voir que vous n'oubliez pas la Direction Suchard. Nous venons vous remercier sincèrement d'abord pour les souhaits exprimés à l'occasion de la nouvelle année, et ensuite pour votre envoi d'une superbe boîte de vos excellentes marrons. Nous les avons trouvées de qualité parfaite, goût de vanille très fin, et dans l'ensemble supérieurs à ce qu'on trouve dans la commerce en France. Ceci dit en toute sincérité ! Merci une fois encore pour cet aimable envoi.

Nous vous présentons nos vœux de bonheur, de prospérité, et de santé parfaite pour l'année qui vient de commencer, et vous assurons, Cher Monsieur, de nos sentiments les plus cordiaux.



世界中のあらほめられた 日本の語り 独戸のほまれの！

マロングラッセは
ヒロタの鉛菓です

元町通三

TEL (3) 2340-3523